

北九州商工会議所 会報誌

北商ニュース

The KITAKYUSHU Chamber of
Commerce and Industry

8

2019 Vol.54
No.634



吉志学舎の大広間(門司区)

今月の特集


特集I にぎわい創出へ積極的に事業展開
平成30年度の収支決算など承認

特集II 「キャッシュレス決済」導入
国の事業を教えてください

会議所からのお知らせ
常議員会で3号議員を選任

会議所の動き
若松で世界遺産セミナー

キャンパス通信
「口腔衛生チームの役割」とは

 北九州商工会議所



北九州 いいところ見つけ!!

Vol.147 吉志学舎の大広間

畑が広がり、住宅が立つのどかな場所にその「お屋敷」はあった。中は広く、いくつもの部屋がある。ここはかつて地元財界人の邸宅だった所。現在は市民も利用可能な文化交流施設になっている。

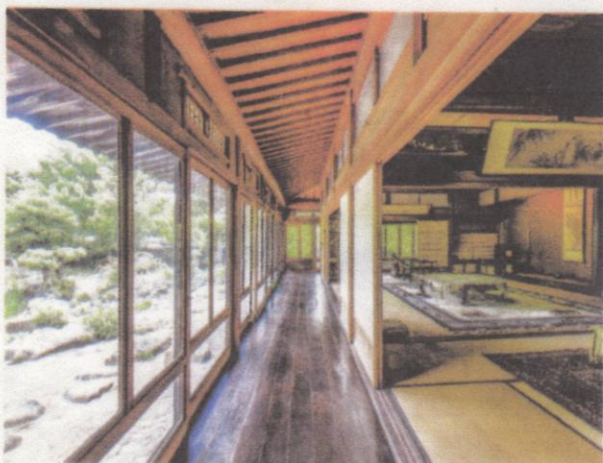
所在地:門司区吉志7

撮影:(公社)日本広告写真家協会特別会友 写真家 坂本マスオ



吉志学舎は、九州自動車道の吉志パーキングエリアにほど近いところにある。住所は門司区吉志7-16-1。車で行くのが便利で、車の駐車スペースもある。訪ねる場合は事前に中尾三郎さんに連絡を(080-1772-7576)。

元井筒屋社長の邸宅



大広間に接する長い廊下。左側に庭が見える

ここのあるじだったのは(株)井筒屋社長のほか、北九州商工会議所副会頭も務めた局(つばね)哲平氏=2012(平成24)年に100歳で死去=。「地域の大地主だった局氏の祖父が慶応年間に建て、局氏の父が昭和初期に現在の規模に増築した」(2017年4月20日毎日新聞)という。

建物は木造一部2階建て。敷地は周辺の畑まで含めると2000平方メートル以上、表紙写真の大広間は2間を合わせて25畳あるといい、1階にはこの大広間を入れて12もの部屋があるそうだ。建物は現在、「吉志(きし)学舎」と名付けられ、文学同人誌「九州作家」代表の中尾三郎さん(78)らが管理している。

中尾さんによると、局氏の他界後、空き家になっていたが、局氏の遺族が交流のあった中尾さ

今は文化交流施設に

んに活用について話した。その結果、中尾さんらは「九州作家」の拠点や文学サロンなど文化コミュニティ施設にすべく整備し、2017年に「吉志学舎」を開設した。「長く使われていなかったの、建物の周りはやぶが生い茂り、整備は大変でした」(中尾さん)。

現在は、大学のゼミに活用されたり、音楽会が開かれたりしている。中尾さんは「今後は『九州作家 吉志学舎』として法人化し、ここを未来へ確実に存続させたい。地域コミュニティの拠点としても、より進化させていきたいですね」と話してくれた。

TOPICS



恒見八幡神社の「リキリン」

吉志学舎から直線距離で1キロほど離れた所に恒見八幡神社があり、ここの本殿に鬼のような姿をしたものがあしらわれている。「リキリン」と呼ばれる「力神様」といい、地区には「ケンとリキリン」という民話が伝わる。いたづらをする子どものケンを戒め、成長を見守る存在のようだ。